

第4章 流山市における文化財調査の現状と課題

1 文化財調査と現状

(1) 文化財の調査・研究に関わる現状

文化財全般

昭和51年(1976)に流山市文化財の保護に関する条例が制定され、市内における文化財保護の体制が整備されます。

昭和55年(1980)3月31日に「諏訪神社本殿・幣殿・拝殿」が第1号の市指定有形文化財として指定されて以降、45年間に52件の文化財を指定しました。

内訳は国登録有形文化財6件、県指定有形文化財1件、県指定民俗文化財1件、市指定文化財44件です。特に平成20年以降は、年1~2件ペースで指定・登録を進めています。

埋蔵文化財

現在、市内では260か所の埋蔵文化財包蔵地を確認しています。市内の発掘調査は昭和23年(1948)の初石古墳群の調査から始まり、昭和30・40年代の発掘調査は、野田市郷土博物館(当時)下津谷達男と千葉県立高校教諭(当時)古宮隆信の調査指導の下、緊急調査などを行っていました。行政(教育委員会)が主体になって組織的な発掘調査を行うようになったのは昭和50年代になってからです。昭和50年代以降は、首都圏のベッドタウンとして、現在まで大規模な開発に伴う発掘調査が行われました。特に加・平和台・三輪野山の区画整理事業に伴う発掘調査では、新たな市の歴史を紐解く大きな発見がありました。また、常磐自動車道や県道工事に伴う調査は、財団法人千葉県文化財センター(現:公益財団法人千葉県教育振興財団)が発掘調査を行っています。さらに平成9年(1997)から始まったつくばエクスプレスの鉄道建設及び周辺の大規模区画整理事業では、千葉県教育委員会及び市教育委員会による調査が現在も進行中です。

博物館の調査研究

博物館では、企画展開催の事前調査として、30冊の調査研究報告書を刊行しています。これらは、流山市の歴史・文化財に関わる基礎的研究や調査の成果をまとめたものであり、流山市の歴史や文化財全般を把握できる重要な研究報告です。

市史編さん

市史編さん事業は、昭和40年代に秘書企画課（当時）に市史担当が設置され、事業がスタートしました。昭和40～50年代には、金石文記録集5冊、史料集10冊、民俗資料記録集1冊を刊行し、昭和56年（1981）には市史編さん審議会条例が制定され、通史編刊行を目指した本格的な市史編さん事業がスタートします。昭和61年（1986）に流山市史資料目録、平成17年度までに通史編2、資料編13の計15冊を刊行しその後、一般向けの通史である「ふるさと流山のあゆみ」や「チェック！流山のむかし」を刊行し、大きな刊行事業はひと区切りしています。

刊行事業はひと区切りしましたが、近年のつくばエクスプレスの沿線整備に伴う開発や、世代交代に伴う家の改築などで古文書類の寄贈・寄託の依頼が多く寄せられています。古文書類は、昭和40年代から市史編さん事業の中で収集保管や調査を行ってきましたが、昭和61年以降に発見された古文書は、文書目録が刊行されていない状況です。このため、目録の刊行を進めて行くこととし、現在恩田家文書目録の作成を進めています。

県の調査

埋蔵文化財では、常磐自動車道建設に伴う若葉台遺跡発掘調査（昭和56年（1981））をスタートとし、主要地方道松戸野田線の整備に伴う上貝塚貝塚（平成元年（1989））、三輪野山貝塚（平成7年（1995））の調査が実施されています。

また遺跡の保存目的のために、県内主要貝塚調査として上新宿貝塚（平成6年（1994））、つくばエクスプレスの区画整理に先立つ範囲確認調査として野々下貝塚（平成6年（1994））の現況調査が行われています。

つくばエクスプレス鉄道敷設及び関連区画整理事業では、平成9年（1997）から現在まで継続して調査が行われており、その調査件数は500件以上となっています。これらの一部については、発掘調査報告書が刊行され、旧石器時代から近世にいたるまで、流山の歴史を大きく塗り替える発見が報告されています。

有形文化財では昭和42年（1967）に千葉県の民家緊急調査が行われ、市内にあった花野井家住宅（現在野田市清水公園内に移築）ほか5軒の建物調査が行われています。千葉県の近世社寺建築（昭和53年（1978））では諏訪神社、花輪城跡にあった観音堂、東福寺、本覚寺、成顕寺の調査が行われています。「千葉県祭り・行事調査報告書」（平成14年（2002））では北小屋の七日びしゃ等の民俗

行事の内容が報告され、平成5～7年度に調査が実施された「千葉県文化財実態調査報告書（絵馬・奉納額・建築彫刻）」では、市指定文化財になっている東福寺の「俵藤太百足退治図」のほか、市内絵馬一覧及び神社彫刻として諏訪神社本殿、赤城神社本殿（ともに市指定）、大宮神社本殿の調査が行われています。「千葉県の産業・交通遺跡」（平成10年（1998））には利根運河についての調査が報告されています。さらに平成13・14年度には、近代和風建築調査（予備調査）が行われ、流山本町地域の近代建造物の調査や市内神社の建物調査、平成17年（2005）には、近世牧調査が実施され、市内の小金牧についての詳細報告がなされています。

2 文化財調査の課題

（1）文化財調査の課題

文化財全般

博物館や市史編さんの調査研究によって、市内文化財についておおよその把握はできていましたが、つくばエクスプレス線の沿線整備に伴う開発により、まちの様相が大きく変わり、文化財の移動や散逸が発生しています。このため、過去の調査をベースとしながら、現況の調査が必要な状況です。

文化財指定されている多くが、流山本町とその周辺に集中しています。市内には、指定すべき文化財も多く存在しており、指定候補文化財リストから文化財の指定・登録を積極的に進めていく必要があります。

埋蔵文化財

開発により多くの遺跡で発掘調査が行われてきました。残された遺跡については極力保存を図っていく必要があります。一方、記録を保存するための発掘の調査成果では、流山市の歴史にとって重要な発見も多くありました。しかしながら、発掘調査の成果を公表する報告書刊行が進んでいないことや出土品の公開が十分でない点が課題です。

博物館の調査研究

平成21年（2009）に文化財保護業務が生涯学習課から博物館へ所管替えされたことに伴い、文化財保護係と学芸係が統合され、博物館活動及び調査研究に専従する職員が3名から1名に減りました。このため、開館以来継続していた調査

研究報告書の刊行は、職員数の減少に伴う複数業務への従事や定年退職などもあり、平成27年度の調査研究報告書30号をもって中断しています。平成29年度以降、新規採用された学芸員のもと新たな体制を築き、調査研究ができる環境を整備していく努力を続けています。

市史編さん

昭和61年（1986）の古文書目録刊行以降、新たな寄贈や寄託・借用資料を受け入れてきましたが、これらの資料の目録刊行や翻刻事業については、ほとんど進んでいません。また、市内の自然環境が変化する中で、自然環境調査も進めていかなければならない課題です。

3 文化財調査の状況

文化財調査の現状と課題から文化財調査の状況は、以下のとおりです。

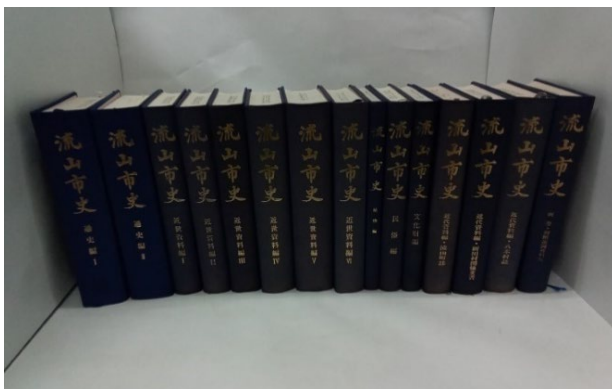
なお、概ね調査済みとしたところも、調査から時間が経過したものもあり、再調査を進める必要があります。

表8 文化財調査の状況と課題

文化財の種類		状況	把握調査の課題	
有形文化財	建造物		△ 神社・寺院・民家の建造物調査を進める必要があります。 石造物の移動による把握調査を進める必要があります。	
	美術工芸品	美術	○ 指定に向けた仏画等の調査を進める必要があります。	
		彫刻	○ 指定に向けた仏像調査を進める必要があります。	
		工芸品	○ 指定に向けた工芸品調査を進める必要があります。	
		書跡・典籍	—	
		古文書	△ 古文書目録の整備を進める必要があります。	
		考古資料	△ 発掘出土品のリスト化を図る必要があります。	
		歴史資料	△ 過去に調査した資料の再調査を進める必要があります。	
無形文化財		○ 新たな技術者の存在を調査していく必要があります。		

文化財の種類		状況	把握調査の課題
民俗文化財	有形の民俗文化財	○	過去に調査された資料の現況調査を進めていく必要があります。
	無形の民俗文化財	○	おびしや行事や年中行事、祭礼の現在の状況調査をする必要があります。
記念物	遺跡	△	市指定候補のリスト化を進める必要があります。
	名勝地	△	庭園の詳細調査を進める必要があります。
	動物・植物・地質 鉱物	○	利根運河や市野谷の森等の動物・植物の実態調査を進めていく必要があります。
文化的景観		△	利根運河や斜面林等の実態調査を進める必要があります。
伝統的建造物群		－	
埋蔵文化財		△	発掘調査を実施した報告書の刊行を進める必要があります。

○：概ね調査済 △：調査不足 －：該当なし



市史編さんの刊行物



博物館刊行の調査研究報告書